

石神地区 村政懇談会

日 時：平成 28 年 6 月 21 日（火） 午後 7 時から午後 8 時 40 分まで
場 所：石神コミュニティセンター 会議室
出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計 10 名
事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員 3 名） 計 6 名
自治会長（外宿一区，外宿二区，内宿一区，竹瓦区） 計 4 名
自治会連合会（会長，事務員） 計 2 名
参加者：外宿一区 7 名，外宿二区 6 名，内宿一区 21 名，内宿二区 10 名，竹瓦区 2 名，その他 39 名 計 85 名
司会進行：内宿一区自治会長 石田 功
報道関係：茨城新聞社 総計 107 名

《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 石神地区副自治会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 石神地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会のことば

《記録》

【4. 質疑応答（村長挨拶並びに村政の説明）】

外宿二区住民：常陸那珂火力発電所の石炭から出る煤煙の対策はどのように考えているのか。燃焼の際に煤煙が出るのか出ないのか。

村民生活部長：うろ覚えで申し訳ないが，今までの発電規模 100 万 Kw の 1 号機，2 号機の火力発電所よりは煤煙が出ない方策で進めるように環境省から言われている。そのため，発電規模 65 万 kW の 3 号機石炭火力発電設備については，かなりの対策を取っており，環境省が許可を出している。

煤煙はフィルターをつけているので基本的には出ない。ただ，CO²は間違いなく出ているが，CO²も今度できる三号機でもかなり抑えるという条件で環境省から許可を貰っている。

外宿二区住民：対策が後手にならないような建設方法を取ってほしい。

石神地区 村政懇談会

竹瓦区住民：今日、村政懇談会の会場に入って自治会長と連合会長が前に座っているので驚いた。村政懇談会は広報とうかいの6月10日号に案内が出ていたが、そこでは村主催と載っており、共催とは載っていない。行政協力員制度が廃止になり、村は役場と自治会が一線を画するような形で進めているのではないか。実は村政懇談会があることに最近まで気付かなかった。6月10日号の広報とうかいでは、自治会長の写真が掲載されているページの後ろに小さく村政懇談会の案内が載っている。広報とうかいは全てそうなのかと思ったが、表紙に内容の項目が載っている号もあれば、6月10日号のように地区の運動会の写真しか表紙に載っていない号もある。そうではなくて、例えば広域避難計画の説明会や歴史と未来の交流館の説明会など、村民にとって大事な政策の行事であれば、村民の広報とうかいへの接触率は分からないが、少なくとも手にとって見てみようかなと思うくらい、アピールがある広報とうかいにしてみたい。それから担当者が違うのかもしれないが、広報とうかいの作成が毎号違う気がする。村長の自らの施策を打ち出し、紹介し、PRする広報紙なのだから、できればこの年度はこの作成方針でいこうという一貫したものを持って、我々村民に提供してもらいたい。要望である。

村長：広報紙は今年度から少し変えている。10日号と25日号が似たようなものになっているため、差別化を図るために、10日号の表紙には色々な写真を使っているが、25日号には表紙からお知らせ文を入れている。そこはあえて分けているが、常にどうやったら見やすくなるかを考えながら作成しているので、意見を伺ったうえで担当にも伝えたい。

【6. 質疑応答（石神地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

なし

【7. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

外宿一区住民：先ほど事前質問で回答があった、外宿一区西原地区のスマートインターから6号国道までの道路の整備について説明したい。この質問は平成26年度に外宿一区の要望事項として出し、平成26年度の村政懇談会でも改めて質問を行った。平成26年度も、平成27年度も、平成28年度の事前質問の回答に書かれている内容と同じだった。平成26年度の回答も平成27年9月にみちづくり検討委員会をもって検討したいという回答だったが、一年以上経過している。なおかつ今回の事前質問回答の中で、平成27年9月のみちづくり検討委員会で村道1014号線について検討することにしていると書かれているが、これはみちづくり検討委員会で決めたのか。村道1014号線に決めたのは役場なのではないか。我々は3本道路に関する要望をしたが、行政は予算もあり、太くした方が良く、工事しやすい環境の道路はどれか、行政ではないと分からないため、要望した3本の道路から1本を選ぶのは行政に願

石神地区 村政懇談会

いした。そのような話をに行った記憶がある。なので、この1014号線についてはみちづくり検討委員会で検討したとあるが、本当にそうなのか。

それと、1014号線の狭隘の状態、車両の通行の状況について、みちづくり検討委員会の方々と都市整備課で現状調査を行っていくとあるが、現状調査をこれから行うのか。この要望を行ったのは26年度である。平成26年に石神学区で一番先にこの要望を出しており、学区として是非とも行ってもらいたいことである。色々な事情があるのかと思うが、これからどこが狭いのか検討委員会で検討していくと書かれているが、初めて質問してから3年も経っている。正直今年の計画書に載っていると思っていた。それほど外宿一区西原地区のスマートインターから6号国道までの道路の整備は、広域避難計画でも問題として指摘している。避難の際8千台の車が来ることを考えれば、急ぎで行わなくてはならない事業である。このような大きな事業は村だけでできないのであれば、国からお金を貰うしかない。率直な意見として時間がかかり過ぎである。事が大きいだけに色々問題はあるかと思うが、もう少し急いで回答を出してもらいたい。

内宿二区住民：現時点での避難道路の補修がどのような形で進んでいるのか教えてもらいたい。村役場近くの道路の補修はされたかと思うが、実際石神地区の道路の補修が全く進んでいない。道路が傷んでいることで事故の誘発も考えられるが、村としてはどのように考えているのか。

建設農政部長：道路補修についての御意見、御質問だが、村としては都市計画道路という大きな道路が経年変化により傷んでいるため、計画的に補修している。生活道路や村道の補修については、基本的には自治会の要望として出されてから、全体的に直すとして5ヵ年計画の中で行っていく。ただ、穴が空いているとか道路の傷みが酷い場合は随時対応している。細かいところまでは行き届かないという事もあるが、それは自治会を通すか、個人でもここが悪いという場所があれば、相談してもらえれば、その都度対応していく。改修は計画を立てて行っていかななくてはならないので、それはみちづくり検討委員会など、自治会の中で優先順位を決めて行っていこうと考えている。

内宿二区住民：役場の周りの道路だけ一番先に行ったのが気になる部分である。実際震災から5年経つが、東海村の道路の補修が一番遅れている。那珂市にしてもひたちなか市にしても主要道路の補修はほぼ終わっている。村民としてはそこが一番重要な部分かと思う。実際にどこを補修しているのか見えず、役場庁舎の建物の補修をしているのは順番が違うのではないか。意見として聞いてもらえれば良い。

建設農政部長：都市計画道路の話かと思う。他の市町村でも、年数が経過しているため、まずは大きな幹線道路の補修を計画的に進めている。平成32年までの計画を立てて、順次悪いところを調査して直しているところである。皆さんの身近な生活道路

石神地区 村政懇談会

は、計画的に、自治会からの要望事項として直している。決して役場の近くだからと補修した訳ではなく、幹線道路を中心に補修に取り組んでいることを理解してもらいたい。

司会：司会だから質問できないが気になっていた事を質問してもらえてありがたい。石神地区は都市計画道路が少ないため、整備が非常に遅れている。

外宿二区住民：日頃行政にはお世話になっている。質問は3点ある。1点目は、除草についての質問。久慈川の土手沿いをよく歩くが、堤防は3分の2が刈ってあるが、下は3分の1の草が残っており除草のやり方が違う。これはどういう訳なのか。一度に除草した方がお金もかからず良いと思う。山田村長はこのような事を知っているのか。よく見たほうが良い。2点目は、石神コミセンから石神小学校へ下っていく途中の左側に階段状の法面があるが、そこの木がだいぶ大きくなっている。石神小学校の小学生が歩くので防災上問題があるのではないか。今のうちに切っておかないと、木が大きくなってから切るのではお金がかかる。3点目は、先ほど村長から話があった「持続可能なまちづくり」の最後のポイントである、歴史と未来の交流館について。先日あった説明会には行けなかったが、東海村には文化センターがある。文化センターもそろそろ40年近くなるため、建替えの時期になる気がする。文化センターを建替えると、また何十億というお金がかかる。文化センターの現在の稼働率はあまりないと思う。3割くらいのような気がする。将来文化センターを建替えるときに複合施設的な考え方で、大きめな建物を建てれば、そこに歴史と未来の交流館も一緒に入れられるのではないか。そのほうが合理的であり、費用もかからないのではないか。そのような考えはなかったのか。村長に聞きたい。

建設農政部長：私から堤防の草刈についてお答えする。これは毎回話題になることであり、大変気にしている。堤防の上の方は国交省が、下は村が管理している。なかなかうまく連携がきかず大変苦勞しているところである。我々もこの前その場所を見に行くと草が残っていたが、もう刈ったと思う。なるべく齟齬がないように努力しているところである。国交省と協議を重ねているが難しい。

2点目の擁壁は気にしているところである。木が生えてきて、段々大きくなってきてしまうため、あの木は早急に切り、大きくなならない木や葉、つたのような花を植えるよう計画している。先程話に出ていた石神地区の道路に関してだが、昨年度石神コミセンから石神小学校に向けての段差の解消と歩道の拡幅は行った。石神地区だけ行っていないということはないのでよろしくお願ひしたい。

村長：文化センターの話だが、村で決めた訳ではなく、個人の意見として建替えは考えていない。この時代に3万8千人のこの村に8百人程収容できるホールが必要かと考えてしまう。1市町村に1ホール必要なのか難しいが、これから全ての市町村が同じ施設を持っている必要はないというのが私の考えである。以前はまぎくに置いてい

石神地区 村政懇談会

た出土品が全て中央公民館に置いてあるが、中央公民館はもともと耐震性がないため、文化センターの脇に新しくプレハブを作って移転した。今残っている旧中央公民館は取り壊すことが前提であり、あそこは駐車場を広げたいと考えている。新しい施設の整備が進まないと全部が止まってしまう。色々な意味で計画通り進めてきて、中央公民館の機能は向こうに移転し、青少年センターは残ったままなので、場所の確保のためにも新しい施設は必要である。年度毎に順番に計画通り行ってきたため、ここで止めるわけにもいかない。ただ施設ありきではなく、必要性があって活用できる施設だと皆さんに理解してもらうのは行政の説明責任である。まずは歴史と未来の交流館があり、文化センターについてはできるだけ長く使いたいと考えている。

外宿二区住民：埋蔵品関係は今中央公民館に移しているが、その他に例えば歴史と未来の交流館の目的で耳にする青少年の育成についても、別に建物がなくても可能である。野外でもできる。それを考えると目的があいまいな感じがする。そのために何十億かけるのか。一つの外郭団体を立ち上げるとそこに補助金をつぎこまなくてはならなくなる。そこから返ってくるものが何もないため、補助金が出しっぱなしになる。それが半永久に続くことを考えるべきではないか。東海村も高齢化が進み、社会保障関係も相当お金がかかる。東海村も裕福だというのが、どんなにお金があってもあつという間になくなってしまふ。先程火力発電所からの固定資産税が相当あるという話があったが、それとこれとは全く別問題である。そこを考えるともっと慎重に考えるべきではないかと思う。よろしくお願ひしたい。

舟石川一区住民：原子力政策について質問したい。広域避難計画の説明会に出席できなかった。東海第二発電所が運転することを前提に避難計画は進めているのか。福島の原子力発電所が爆発したとき、今は水素爆発と言われているが、インターネットで見るとあれは核爆発ではないかという説が出ている。福島の1号炉の爆発は確かに水素爆発のように見えるが、3号炉は1回光ってから少し遅れて破裂している。実際にその違いはなんなのか。ニュースの広報で原子炉がメルトダウンしたという内容も最近になって発表された。メルトダウン自体は当然考えられていたのに、4、5年経った今になって広報されており、遅れすぎている。福島の事故が実際にどういう事だったのか、はっきり理解して、村民に広報などでよく教えてもらいたい。福島の発電所が爆発した際には、津波が来て非常用電源が水没したため爆発したという話だった。非常用電源が水没しても冷却可能であるように、例えば非常用電源が建物の中に入れて水没しないようにするなど、停電や水没があっても冷却ができるように進めてもらいたい。広域避難道路も東海から南の方への避難を考えているとのことだが、事故の風向きによって、福島の場合には北西の方向に80キロ放射能が広がっているのだから、その時の風向きによってどちらに逃げられるかも分からない。避難経路は南の方と北の方の二箇所を考えるべきではないか。

石神地区 村政懇談会

村長：広域避難計画の策定は東海第二発電所の再稼動を前提としていない。全く別である。今は全て取り出しているので原子炉に燃料はない。ただ使用済核燃料もあるので、それも含めていざという時に避難できる計画を作る。地域防災計画上も自治体として広域避難計画作成は義務付けられているので、きちんと作成したい。福島事故は、色々なところが色々な事故の検証報告を出しているが、確かにまだ詳しく分からない。いずれにしても炉内の様子が分からないため最終的な言及ができないのも事実である。新潟で県知事が東京電力に対して検証をしっかりと行うように言ったため、最近ぽつぽつと色々な事が出ている。いずれにしても今はまだそのような情報が錯綜しているところもある。国で再度調査するのも分からないが、一般的なメディアの報道ではなくて、きちんと公式に出された情報は村でも広報したいが、単に村の考えで色々な情報を住民の皆さんに知らせるのは危険であるため、情報の整理はしたい。避難先については、基本的には県が考えている広域避難の考え方は原子力の過酷事故を想定しており、複合災害を想定しないため、風向きを一切考慮せずに、とりあえずUPZ30キロより外という考え方で、東海村がいち早く取手、守谷、つくばみらいへ避難することが基本である。ただ、発言された通り、事故が進展している中で放射能が出ている場合、そして風向きによってたまたま南になった場合どうするのかという話は、この前の意見交換会でも出ている。その辺りの研究は内部でしているもので、どこかで皆さんにはお知らせしたい。ただ、色々なパターンを考えすぎるとまとまりがなくなるため、基本的には条件を決めて、その条件のもとではこの計画、条件が変わった場合は対応してこうなるといったことは考える必要がある。そこも含めてもう少し時間をもらいたい。

内宿二区住民：私は米作りをしているが、村長が就任した時に村の農業施策について公社を作ると言ったと思うが、その後公社の話が全然出てこない。村の農業施策はどうなっているのか。

村長：私は農業を守るために、村で農業生産法人を作りたいと言った。実際役場内部で検討したが、村が職員を雇って、そこで村が農地を買い上げるか借りて、米や野菜を生産するシミュレーションをしていくと、どうしても赤字になってしまう。ある程度想定はしていたが、役場で施策として進める時に、最初から赤字ありきのものを議会にかけて予算を認めてもらえるのかは疑問があり、今はそこで止まっている。村だけで行おうとするとそうになってしまう。茨城町は町とJAで出資し合っているが、茨城町さえも、農地の貸し借りなどのほんの一部であり、生産法人として自ら生産していくという事は行っていない。全国的に見ても土地の貸し借りだけではなくて、自分で耕作し、農業生産法人としているのは、株式会社で行うようなパターンもあるが、なかなか成功している例がない。それで二の足を踏んでいる状態。ただ、今村内に米の生産法人があり、野菜の生産法人も最近株式会社化して干し芋を行っているところも

石神地区 村政懇談会

ある。何も役場が全て行わなくても、そのような人たちが出てくるのであれば、その人たちがもう少し農地を集約してできるような方向を考えたい。最初は私もいきりたって公社を作ると言ってしまったが、役場職員は村長がいくら言っても、税金をちゃんと使えるように危なかったら行わない。それを私が頭ごなしに何でも良いから行えとは言えない。もう少し検討させてもらいたい。ただ、何か行わなくてはいけないと思っている。やる気のある人を何とか応援して、農地を集約して生産を頑張っ、若い人たちが行うのであれば、その人たちに色々な補助金を出すのは行っても良いのかなと思っている。いずれにしても村が行わないのであれば、他に何かできる方法を考えていきたい。これも時間がもらえればと思う。

竹瓦区住民：道の要望について。常総市の水害を踏まえて国交省は河川の防災情報をまとめているが、茨城は那珂川と久慈川が対象になっている。私もネットで見たが、それまでは竹瓦は水害が起きても水深は0.8m程度という事で命に別状はないと思っていたが、今度の話では2mから3mの水深、水害が起きるとのことだった。先ほどの避難道路の話はこれから検討ということだったが、水害は明日起こるかも分からない。では、どう逃げれば良いのかを考えた時に、区の要望として役場へは避難塔を設置して欲しいと出したが、その時は避難塔の計画はなく、早く逃げてもらいたいという話だった。我々は早く逃げる事はできるが、足腰の弱い人たちはどうするのか。水害で堤防が決壊して水が押し寄せてきた時に逃げることでできる道路があるのか。県道近くの境界線の一番低いところは海拔何mなのか。私達の集会所は海拔4m、農道はそれよりも更に低いはずなので恐らく2m程度である。石神城址公園に上がる土地改良区の農道も海拔がかなり低い。それから座応山の話だと、座応山の真ん中を切る必要はない。水が出ても、逃げる道が一本確保できれば良い。それを早急に確保して欲しい。幹線道路を整備しているという話だが、豊岡から亀下を通過して竹瓦の信号機があるところから100mくらいのところで幹線道路は止まっている。ずっと左に曲がっていく道路は土地改良区の道路である。このような状況であるということで、竹瓦はあと何年かで人口100人切るという統計も出ているが、一人一人の思いをくんでもらい、逃げる道が一本確保できれば良いので、自治会長の代わりにお願いしたい。

村民生活部長：まずは防災面について。これは皆さんにお願いするしかないが、今までは気象情報から避難して欲しいという情報は出し辛かったが、最近はおオカミ少年でも良いので早く避難を出すことを心がけている。そのため、自分の身は自分で守るという事を基本に、みなさんには早めに避難していただきたい。道路は予算の関係もあるため、建設農政部長から回答があるが、昨年大雨になった時に石神小学校を開放したように、みなさんが早めの避難ができるよう、避難所は早めに開設するのでよろしくお願いしたい。

石神地区 村政懇談会

建設農政部長：今、村民生活部長から回答があったように早めに避難するのが一番である。その避難場所にどうやって行くのかという事で、一路線だけでも作って欲しいとのことだが、ではどうやって逃げるのか。道路を高くあげるのか。道路を幅広くするのか。ただ避難の際は車ではなく、徒歩で逃げると思うが、それならばどのような方法が良いのか。田んぼの中の道を高くするのは難しく、道路をどのようにすれば徒歩などで避難所である石神小学校に行けるのか。歩道だけを高く歩けるようにするのかなど、なかなか難しいところでもあるので、そのようなソフト的な面も含めて道路をどのような形でどこを通過して行くのか、避難計画の中で位置付けながら、皆さんとハード面も考えていきたい。座応山の短距離の話も考えられることだが、それができないとなると田んぼの中を長い距離歩いていくことになる。低い田んぼなのでそれを高くするというのも田んぼの耕作の問題もある。そのあたりもみなさんと協議していきたい。よろしくお願ひしたい。

外宿一区住民：以前の東海村は大きな幹線道路が結構整備されていた。他の隣接市町村よりも早かった。しかし、ここ10何年かは道路に関しての行政の計画が正直遅れているのではないかと思う。そんな中で今避難計画が出ているときに、道路を一刻も早く整備するというのは、ある意味で大義名分がつくのではないかと思う。当時よりも人口が増えており、状況が変わっているため、今までよりもスピード感を持って道路を整備してもらいたい。最近道路関係で嬉しいことがあった。マラソン道路の舟石川から笠松運動公園に向かうまでの道路の両側1メートルくらいが伐採され、道路が明るくなった。今東海村の色々な道路を見た時に、電線の上に木がまたがっている状況が数多くある。そのような状況の中で、先程の6号線の道路に出るところも冬になると凍結し、子どもも一人で通れないような暗さもある。また、以前道路は目的税で整備されていたが、一般財源になってからは幹線道路もあまり整備されていない。草も車に乗った時一番見えないところにあり、子供たちの目線から見ても何かしら事故が多いのではないかと思う。そんな意味で、東海はある程度将来を見越して道路の整備を進めてもらいたいと、村民として思う。

建設農政部長：確かに今まで街路樹等がかかっており通りにくかった。避難計画もあるので村全体を俯瞰して、計画の中で行っていければと思う。

外宿一区住民：なぜ舟石川から笠松運動公園に向かうまでの道路は伐採して明るくなったのか。新しく東海村として先見性を示していくのかと思った。

建設農政部長：その場所は個人のものなので村は関与していない。

外宿一区住民：村がそのような事に全て関与してもらえば良いと思った。

外宿二区住民：3点ばかりお願ひしたい。前の自治会の活動の時には、行政、自治会、村民の三位一体の活動を東海村の一つの活動方針としており、もう一つは福祉の村を

石神地区 村政懇談会

掲げて活動してきたが、村への色々な要望事項は自治会を通すのか、直接村にお願いするのか。その取組み方に非常に戸惑っているの、そのへんの交通整理もしてもらいたい。それが1点。もう1点は、村長が冒頭で広報紙について話していたが、非常に字が細かくなった。2倍のルーペでは見られないので3倍のルーペで見ている。一時は高齢化対策として新聞も週刊誌も活字を大きくしていた経緯があるが、また字が小さくなっている。3倍のルーペで見なくては読めない。見やすい広報紙をお願いしたい。広報とうかいは村の情報を伝達する1番の手段であるため、読みやすいものをお願いしたい。3点目は、今原子力の問題や道路の問題が色々出ている。避難道路の問題、特に竹瓦から小学校に続く避難道路は先程の発言もあったように一刻を争うことである。自分達が自治会活動を行っていた時に、避難道路（原電通り）を4車線にしようとは何年かお願いしていたが、いまだにこれから検討しますという回答である。検討するのではなく、このような理由でできないと理由を述べてもらいたい。警察と話す、原電と話しあうなど、実際に行っているアクションが見えず、毎回同じことを聞いている。説明の中でこのような活動をしていると情報を提供して欲しい。そうしてもらえれば毎年同じことを言わなくてすむ。

村長： 要望事項について。当然自治会は強制加入ではない。地域で要望をあげてもらうことは大事だが、個人的に言う場も必要である。村民提案レターも村長のふれあいトークなどもあるが、どれだけ村民の声を聞きとれるかも大事なので、手段を一本化する必要はないと思う。色々な要望の形があって良いと思うが、自治会を通して要望してもらおうのも必要かと思うので、それは続けてもらいたい。

広報紙の文字の大きさが見辛いというのは、確かに色々な年代の方にとってもう少し見やすくというのはあるかと思う。他の市町村の広報紙を見ると確かにもう少し文字が大ききところもある。ただ東海村の広報誌は色々な情報を入れたがる傾向にあり、ページ数も多いとあれもこれもとなってしまうので、本当に住民にとって必要な情報を分かりやすく伝えられるように考えていきたい。来月号からすぐに文字が大きくなるとは言えないが工夫したいと思っている。

村政懇談会でいつも同じ質問をして、答えが毎年変わっていないというのは私も気になっている。部課長にも去年言われたことと同じ事は言われないようにしよう、とは言っているが、結果として進んでいない事もある。毎年検討となっているのも事実なので、何がネックで進まないのかも、もう少し説明の仕方も考えなくてはならない。いずれにしても村政懇談会でもらった意見に対して来年まで全く変わらないと、できないならできないと今まではっきり言っていなかったのも事実である。検討という言葉で逃げていたのかもしれないが、そこをはっきりさせなくてはならない。必要以上に期待を持たせてもいけないし、ここは何年かかる、どこを優先するという事をはっきり言わなくてはならない。村としてはここが大事なのでここに税金を投入します、そこは1、2年待ってくださいと言わなくてはならない。ただ、広域避難計画につい

石神地区 村政懇談会

では最優先の課題である。6地区あるため、それぞれを同じようにはできないが、久慈川を抱えているところは水害など、それは他の地区にはない地区特有の課題だと思っている。なんらかの前に進める回答案がないと皆さん納得できないと思うので、そこはもう一度真剣に中で議論してお答えできるようにしたい。

以上